

# 会 議 報 告 書

1 会議名	令和2年度第1回北上市子ども・子育て会議		
2 日 時	令和2年7月2日（木） 午後3時から4時30分まで	3 場 所	北上市本庁舎5階第1会議室
4 出席者	<p>【委 員】12名（別紙名簿のとおり）</p> <p>【事務局】6名（市長、教育長、教育部長、子育て支援課長、課長補佐、育児支援係長）</p> <p>【傍聴者】2名（報道機関）</p>		
<p>会議に先立ち、新たに委嘱した委員2名に市長から委嘱状を交付した。</p> <p><b>【内 容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 開 会</li> <li>2 挨拶（北上市長）</li> <li>3 会長選出</li> <li>4 説 明（子ども・子育て会議委員の職務内容について）</li> <li>5 報 告（会長進行）</li> <li>6 その他</li> </ol> <p>○ 委員14名中12名の出席、過半数の出席があり本会議が成立すること報告。</p> <p>○ <b>会長選出</b></p> <p>今西界雄委員が満場一致で会長に選出。 会長から、佐藤仁実委員が職務代理者として指定。</p> <p>○ <b>報 告</b></p> <p>(1) <b>北上市子ども・子育て支援事業計画の実施状況について（令和元年度末現在）</b></p> <p>【説明の要旨】 北上市子ども・子育て支援事業計画に記載されている67事業の進捗状況について、資料に沿って主な項目について報告した。 【資料1】</p> <p>【質疑、意見】 なし</p> <p>(2) <b>第2期北上市子ども・子育て支援事業計画について</b></p> <p>【説明の要旨】 計画の概要、主な事業について説明。</p> <p>【質疑、意見】 ・学童保育所の指定管理は、希望するクラブが申請か、徐々に半強制的に全施設となるか。 ⇒指定管理は土地建物も含め一体的に事業の管理運営を行う。指定管理を行うためには土地建物の市所有が条件となる。申込制ではなく、施設の状況等をみながら順次移行していく。 運営主体とは意思疎通を図りながら、一方的にではなく進める。</p>			

- ・大規模クラブは経営が潤沢だと思いが、小規模は経営がなかなか苦しい。その辺を加味して進めていただきたい。
- ・(第2期計画の) P62子どもの学習支援事業の学習ボランティアや学習支援員は具体的にどういった方達がなされているのか。
  - ⇒子どもの学習支援は子どもの居場所づくりも含めて事業展開している。北上市においては社会福祉協議会で実施しており、退職した教員等にお手伝いいただいている。
  - あわせ、子ども食堂については、社会福祉協議会で行っていただいているほか、民間団体で週ごとに場所を変えてやっていただきありがたい。市は開設準備金を出し応援していく。
- ・P58、P101家庭児童相談の件数について。H30年度の悲しい事件を受けて私たち主任児童委員はいろいろな学習をしている。増加傾向にある。見守りを通じできる範囲内で支援を行っている。
  - 学校でも困っていることがたくさんある。昨日ケース会議があり子育て支援課にも来ていただき一緒にやることですごく助かっている。保護者、学校両者の立場で一つの減らす方法として私たちは通報お知らせしかできないので、虐待まで至らないように、また兆候が見えた時の家庭、学校、市の役割は？(計画は)理想論を掲げているので、数字がなぜ多くなるか、地域間の交流が少なくなっており地域もやらなければと思っているが、多様化しており、どう対応していくか、教育委員会の考えがあれば。
  - ⇒痛ましい事件をうけ、市では内部監査をし、市独自のマニュアルを作り随時評価をしながら進めている。その後、保育園、小学校等から通報を受けて保護した児童もいる。児童虐待の対応はスムーズに動いている。問題は児童虐待に起こるまでの動きをいかに早急に把握できるか、起こらないようにするには何が必要かはまだまだこれから。貧困対策も一つの手助けになる。

### (3) 北上市認可保育施設の利用定員について

- ・今年度4月の保育園、認定こども園、地域型保育事業、幼稚園の利用定員、利用児童数について資料をもとに説明。
- ・今年4月開所：ニチイキッズ北上むらさきの保育園、ピッコロ保育園(定員の利用協議の時は第二どれみ保育園)。ピッコロ保育園は当初A型で予定していたが、B型での開所となった。
- ・令和3年度は横川目保育園、横川目幼稚園の廃止、民営化による仮称和賀地区認定こども園の設置予定。専修大学北上幼稚園の認定こども園化を予定。
- ・利用定員と利用児童数について、4月時点で1号は431名の余裕がある。2号は利用児童が定員を29人超えているが、定員の弾力化の運用により受入。3号は0歳58人、1・2歳児は17人の余裕があり概ね利用希望にこたえられているが、年度の途中で育児休業復帰や産後休暇後の職場復帰等により不足が見込まれる。
- ・令和2年4月1日の待機児童は速報値だが1人。
- ・昨年度の表からの変更点
  - 未移行幼稚園の利用定員：認可定員⇒入園が見込まれる数(第2期計画で見込んだ数値)
  - 事業所内保育事業所の掲載人数：地域枠の人数⇒従業員枠も含む人数  
(待機児童の計算の仕方等の変更等により)

### ○ その他

教育部長から、子育て応援1億円プロジェクト・子育て応援1億円プロジェクトについて説明。

○教育長総括

第2回会議は年度後半に開催予定。

今回の会議は第2期計画の初年度第1回となり報告中心となったが、資料等を確認のうえ2回目以降の会議で意見をいただきながら事業計画の改善につなげたい。

第2期計画に貧困対策を盛り込んでおり事業を展開していく。

幼児教育・保育の無償化によりニーズの多様化しており、保育士確保、待機児童ゼロを目指し受け皿の充実、h o k k o（保健・子育て支援複合施設）の中にも、子育て支援のブースもできるので市民に伝えていきたい。